

国史跡 もっと知りたい！
摩利支天塚・琵琶塚古墳



「摩利支天塚古墳（左）」と「琵琶塚古墳（右）」を空から見た写真です。
2つの古墳は、小山市北部（小山市大字飯塚）にあります。
栃木県最大級の古墳で、国指定史跡（国史跡）になっています。

摩利支天塚・琵琶塚古墳について詳しく調べてみましょう。

歴史的背景



弥生時代

米作りを中心とした生活が始まると、^{ほうけいしゅうこう}方形周溝墓（周囲に方形に溝を掘り、土盛りして墳丘を築いた墓）や^{よすみとっしゅうがたふんきゅうぼ}四隅突出型墳丘墓（四隅がヒトデのように飛び出した形の墳丘墓）と呼ばれる大きな墓が作られるようになります。

これは、人々の暮らしの中に身分の差が生まれはじめたことを示しています。

古墳の出現

4世紀になると、奈良県に大きな前方後円墳が出現します。埋葬施設には、鏡や剣・刀・玉類などが副葬されました。大和地方に出現したこの墓は、次第に各地に造られるようになります。それが古墳です。^{しもつけぬのくに}下毛野国（現在の栃木県南半分）でも造られるようになりました。古墳は、住居跡や城跡などのように偶然残ったのではなく遺骸の埋葬場所としていつまでも残るようにはじめから意図して造られたものです。

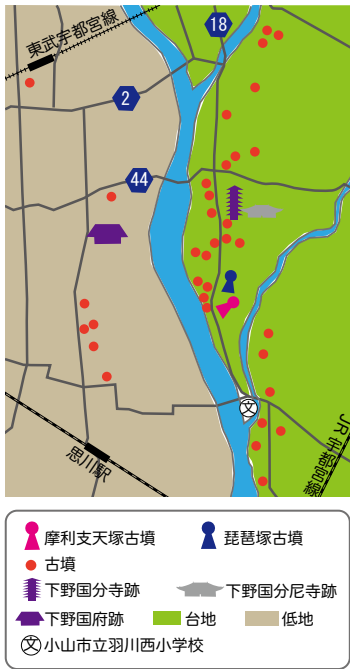
思川流域の古墳

栃木県で古墳が造られたのは4世紀中頃からで、7世紀末頃まで続きます。思川流域では5世紀後半から6世紀初頭にかけて、広い範囲に古墳が造られるようになりました。

現在、小山市内の中央を南北に流れる思川は、足尾山地を源流とし、渡良瀬遊水地で渡良瀬川と合流します。さらに、栃木県・群馬県・茨城県の県境付近で、利根川に合流する県内屈指の大河川です。

思川流域にはたくさんの古墳や遺跡が残されていますが、これは、川が昔から人の居住や移動・物の輸送に重要な役割を果たした結果であると考えられています。特に、思川と姿川が合流する一帯は、肥沃な低地と平らで日当たりのよい台地が入りまじっており、居住や耕作に適したため、多くの古墳や遺跡が残っています。

この辺りで古墳が最も多く造られたのは6世紀後半から7世紀頃で、大きな前方後円墳が築かれるのは6世紀に入ってからのことです。巨大な古墳の出現は、広い地域を治める強い力を持った豪族の誕生を意味しています。



摩利支天塚・琵琶塚古墳が造られたのは

6世紀前半になると、思川と姿川の合流付近に県内最大規模の前方後円墳である「摩利支天塚古墳」や「琵琶塚古墳」が造られました。2つの古墳は、思川と姿川の合流点から北へ約1kmの台地上（小山市大字飯塚）にあります。

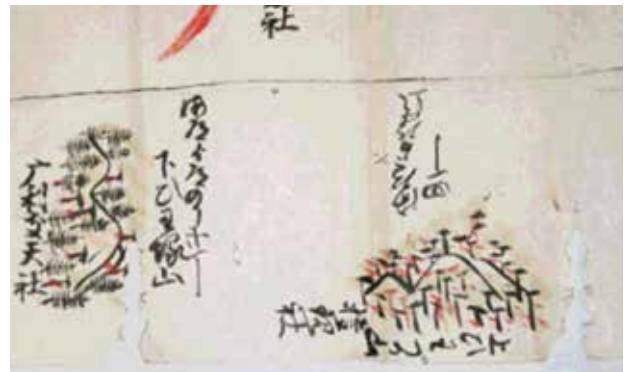
中でも琵琶塚古墳は下毛野国で最大級の前方後円墳です。このことは、この地域が下毛野国の中心的な役割を果たしていたことを示しています。その後、思川の上流に向かって大きな前方後円墳が7世紀になるまで造られ続けました。

やがて那須国を併合して下野国となった奈良時代には、下野国分寺・下野国分尼寺・下野国府が建てられ、その中心地として栄えていきました。

上琵琶塚山と下琵琶塚山

飯塚に残された正徳2年(1712)の絵図(「飯塚宿絵図」)には、古墳らしい山が描かれ、琵琶塚古墳が「上びわづか山」摩利支天塚古墳が「下びわ塚山」と記されています。

2つの古墳が近距離に並んで存在し、大型で同形の前方後円墳であったためかいつのころからかこのように呼ばれ、江戸時代中期には少なくとも地元では上琵琶塚山・下琵琶塚山と呼ばれていたものと考えられます。



「飯塚宿絵図」に描かれた琵琶塚・摩利支天塚古墳

《小山市立博物館蔵》

小山市に残る主な古墳や出土品

篠塚稲荷神社塚古墳

6世紀半ば頃に築かれた前方後円墳で琵琶塚古墳後の首長墳ともいべき中規模の古墳です。後円部には頂上部を削って神社が祀られています。



飯塚 35 号墳



小山ゴルフクラブ内古墳群



桑 57 号墳

5世紀後半から6世紀にかけて形成されたと考えられています。古墳は5基現存し、4基は円墳、1基(桑57号墳)は帆立貝式前方後円墳です。

桑57号墳は天冠など豊富な副葬品が出土し、副葬品は市の指定文化財になっています。



(天冠・蛇行剣・鏡・鈴) ※ 1

円筒埴輪や朝顔形埴輪と共に盾持ちの人物埴輪が並べられていたことが確認されたことから、6世紀後半に造られた中規模の前方後円墳であることが判明しています。

摩利支天塚・琵琶塚古墳との関連においても貴重な古墳です。

形象埴輪

(北上野1号墳出土) ※ 2



人や馬・鳥などのを形取った形象埴輪は、死者への祈りや祭りのために作られました。

円筒埴輪

(琵琶塚古墳出土)



円筒埴輪は、古墳と外界とを区画するために、古墳の周りに立てられたものと考えられています。

小山市の埴輪は、5世紀の終わりから出現します。6世紀にさかんに作られ、7世紀初め頃に作られなくなります。



※ 1 ※ 2 《小山市立博物館蔵》



摩利支天塚古墳を調べてみましょう！



摩利支天塚古墳北側



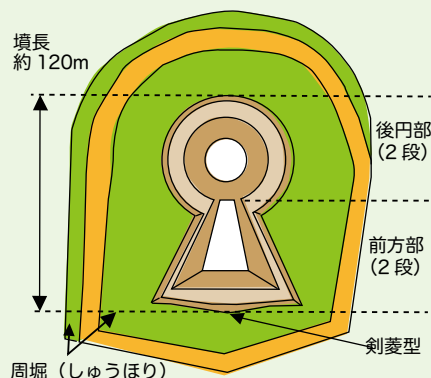
後円部「摩利支天社」

5世紀から6世紀初めに、下毛野国を治めていた豪族のお墓としてつくられた、墳長約120mの前方後円墳です。墳丘は、前方部・後円部とも2段になっており、前方部の先端が「剣菱型（ひし形）」をしている点の特徴です。後円部より前方部が大きく、約3分の1ほど低くなっていますが、均整のとれた形をしています。

筒型の円筒埴輪のほか、人形や馬形の埴輪が多数見つかりました。円筒埴輪は高さ約1mくらいを標準としています。

古墳の周囲には、古墳の聖域と外部を区別したり、古墳に土を盛るために掘られた周堀が、二重にめぐらされています。昭和53年（1978年）国の史跡に指定されました。高さ11mの後円部には、「摩利支天社」がまつられ、鮮やかな装飾が施される本殿は、市の文化財に指定されています。

摩利支天塚古墳以降、琵琶塚古墳をはじめ、思川と姿川の流域には大きな古墳が造られていきます。それまでの周辺の前方後円墳の被葬者とは異なり、中央政権との強い結びつきをもってこの地域を治めた有力首長が葬られたと推測されます。



下毛野国（しもつけぬのくに）

古代、現在の栃木県周辺には「毛野国（けのくに・けぬのくに）」及び「那須国（なすのくに）」が存在していました。4・5世紀の栃木県は、今の群馬県と一つの国を成し、「毛の国（けのくに）」や「毛野国（けぬのくに）」と呼ばれていましたが、5世紀中頃になると、渡良瀬川を堺に「上毛野国（かみつけぬのくに）」と「下毛野国（しもつけぬのくに）」に分かれていきました。この頃那須地方は、「那須国（なすのくに）」と呼ばれていたため、当時の栃木県は下毛野国と那須国の二国から成り立っていたと考えられています。やがて8世紀になると、下毛野国と那須国が合併して、下野国（しもつけのくに）になりました。



琵琶塚古墳を調べてみましょう！



東側から琵琶塚古墳を望む



琵琶塚古墳から出土した埴輪

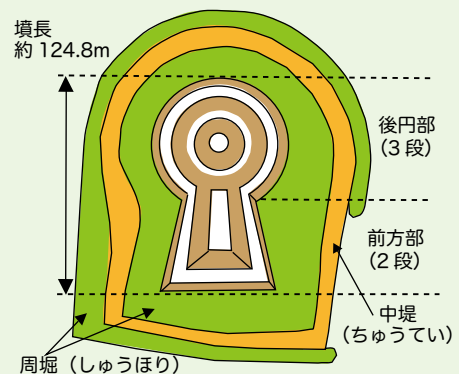
6世紀前半、「摩利支天塚」に続いてつくられた墳長約125mの大型（県内最大級）の前方後円墳です。墳丘の前方部は2段、後円部は3段になっており、高低差は少ないですが、後円部が前方部よりも大きくなっています。円筒埴輪が多く見つかりました。

古墳の周囲には、周堀が二重にめぐらされ、左右非対称の形をしています。墳丘や中堤には、高さ60cmを標準とした円筒埴輪が1m間隔で立てられ、埴輪列が複数巡ることが判明しています。

大正15年（1926年）、国の史跡に指定されました。

前方部に木道が整備されており、高さ約11mの古墳の墳頂まで登ることができ、そこには熊野神社が祀られています。古墳の東側には地元の人たちの育てた菜の花畑が広がり、桜並木とともに古墳の景観をひきたてています。

琵琶塚古墳の西側には、摩利支天塚古墳とほぼ同じ6世紀初頭から古墳時代終末の7世紀前半までたくさんの古墳が造られた飯塚古墳群があります。この古墳群に葬られているのは、琵琶塚古墳をはじめ大きな古墳に葬られてた有力者たちに代々使えた人々であったと考えられます。



王者の墓

奈良時代「大宝律令」が制定されると、中央集権的な国家が造られると共に地方の整備も推し進められました。全国を60余りの国に分け、それぞれの国に地方支配の拠点となる国府が造営されると、摩利支天塚・琵琶塚古墳から北方約1キロの位置には、現在の栃木県庁にあたる「下野国府」が置かれました。また、仏教の力に頼って国家を守ろうという考えが大いに興隆したことから、聖武天皇によって「国分寺建立の詔」が発せられ、下野国にも国分僧寺と尼寺が建てられました。これらのことから、この地域一帯は、下毛野国を代表する首長の基盤として発展してきたことが伺えます。その基盤となったのが、摩利支天塚・琵琶塚古墳に眠る2代の豪族と推測され、2つの古墳は、下毛野国造の基盤を造った王者の墓とみることができます。下野国出身で下野薬師寺建立や大宝律令の撰定など偉大な功績を遺し、中央政界で活躍した下野古麻呂しもつけのこまろという豪族がいました。これは、その先祖の墓かもしれません。

発掘の様子

琵琶塚古墳の発掘の様子です。長い年月の間に土に埋もれてしまった古墳を丁寧に掘り起こしていくことで、当時の墳形を詳しく調べていきます。

①古墳墳丘部の調査予定箇所を伐採しました。



②まず、表面の土を取り除いて、トレンチ※³を掘っていきます。



③墳丘部分もトレンチ※³を掘っていきます。



④墳丘部分から、遺物が出てきました。これは、主に埴輪の破片などです。



⑤1つ1つ手作業で掘り進めながら、取り出していきます。



※3 トレンチ…調査のために設定した発掘区域

⑥墳丘部分から、埴輪が出てきました。
少しずつ掘りながら、調査を進めて
いきます。



⑦埴輪列が見えてきました。



⑧出土した埴輪を全て取り
出しました。



⑨その後穴の跡が崩れない
ように、中に砂を入れて
穴を埋めておきます。



貴重な史跡を将来に渡って大切
に残していくために、発掘調査
を行った場所は元のように戻し
ておきます。



⑩発掘調査で見つかった埴
輪や出土品は、展示施設
で大切に保管しています。

小山市の取組！



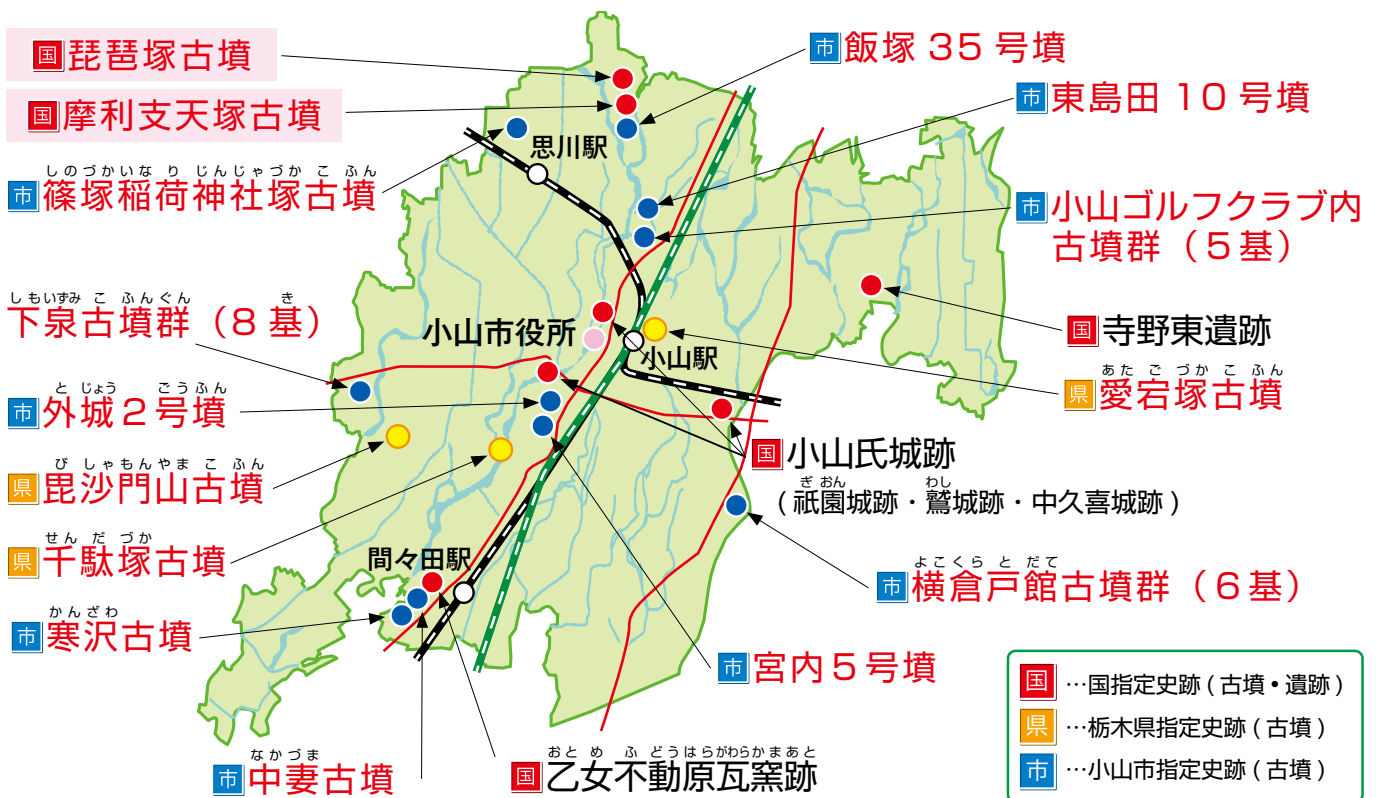
小山市では、摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳にたくさんの人に来ていただき、古代の様子を感じてもらえることができるよう、発掘調査や拠点施設をつくる計画を進めています。



拠点施設完成イメージ図

小山市が誇る多くの古墳や遺跡

小山市には、1000基以上の古墳がありました。(すでに消滅しているものも含む)そして、国や県の指定史跡も数多く残されています。下の地図を見てみましょう！



| | |
|--|---|
| 発行 平成29年3月 編集者 小山市教育委員会 教育研究所 発行者 小山市教育委員会 教育研究所 | — 参考文献 — 市制60周年記念第64回企画展 「指定文化財でふりかえる小山の歴史」 第59回企画展「思川流域の古墳」 市制50周年記念 第47回企画展「思川の自然と歴史」ガイドブック 小山市立博物館常設展示解説 小山市教育委員会生涯学習課 「国史跡 摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳」 |
| — 写真提供及び取材 — 小山市立博物館 小山市立車屋美術館 小山市役所 | |
| 名前 | |